

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

《本校の目指す授業》 すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 国語

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が、ひらがなや文を書いたり読んだりすることができるようになってきた。しかし、数人の児童は読むこと書くことに困難があり、書きたいことを書いたり、調子よく読んだりすることができない。 拗音や撥音の表記が不十分である。 全体的に助詞の使い方の習得が不十分である。 語彙力を豊かにしていくことが必要である。 話す場面で、皆の前で聞きやすい大きさの声で話すことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読を繰り返すことで、読み慣れるようにする。ひらがな表を教室に掲示し、いつでも児童自身がひらがなの形を確かめられるように環境を整える。 自書したものを読み返して確かめることを習慣づけ、助詞の使い方に慣れる。 読書の機会を積極的に設け、本に親しみながら語彙力をつけさせる。 相手、目的意識を明確にして、書いたり話したりすることを単元の活動に入れる。対話的活動を積極的に取り入れる。 児童が自信をもって話せるよう、一斉読みの機会を多く作ったり基本的な話型を提示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を定着させ、音読・文字の練習を繰り返し行わせる。 短作文を定期的に書かせ、書くことになれるようにする。 朝読書の期間を活用し多くの本に触れさせたり、読み聞かせを定期的に行ったりして本好きな子供を育てる。 朝の会や帰りの会で発表の場を多く取り入れ、全員が発表する機会を設ける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読み取りに関しては、読み取ったことをもとにクイズや紹介カードを作って再構築する活動や、発表する機会を設けている。 句読点、かぎ括弧、助詞などを正しく使って書くがほぼ身に付いている。文章を書く際、題材探しをするための支援が必要である。 授業で新出漢字の指導、練習を行っている。小テストで繰り返し練習し、定着を図っていく。また、文章内で活用できる力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取るために、順序や時間を表す言葉に注目して読む指導をする。対話を取り入れた活動をし、表現力や思考力を養う。 書く活動の日常化を図る。題材選びの困難さを和らげるため、テーマを決めてはじめ、中、終わりのまとまりを意識し、句読点やかぎ括弧、既習漢字、ますの使い方を見直したりして、正しく文章を書く力を付ける。 漢字の定着を図るために、反復練習をさせた後に小テストをし、確実に身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習においても音読や漢字練習を繰り返し行わせる。 朝の会・帰りの会において、友達の前で発表する機会や友達の話聞いて質問する機会を作る。 読書などを通して語彙を増やし、本に親しむ時間を定期的に設ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の読み取りに関しては、自分の考えを書いたり、発表したりする機会を設けている。友達の意見を聞いて読みを深める力は十分に育ってはいない。 漢字の学習では、毎日一定の時間を取って指導を行っているが、まとめテストでの成績にはばらつきが見られる。 書くことでは、文章構成を意識して、伝えたいことを詳しく書く力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を叙述に沿って読み取り、表現する力を伸ばすために、友達と伝え合う活動を行う。また、友達の考えを聞いた後にも考えたり感想を書いたりする時間を設ける。 書いた文章を読み直し、既習漢字を日頃から使う習慣を付ける。 「はじめ、中、おわり」の文章構成を考えながら文章を書くように指導する。 「読むこと」の学習と関連させて文章を書くように指 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書や図書時間を確保し、読み聞かせ等、本に親しむ機会を十分にもつ。 家庭学習においても毎日、音読学習や漢字練習に取り組むように宿題を出す。 文章を書く、短文を作るなど、日常的に書く機会を設ける。 朝の会でスピーチを行い、話す・聞く活動を毎日行う。その際、伝えたいことを詳しく話すよう指導をする。

		導の工夫を図る。	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述から登場人物の心情を読み取る力に習熟の差がある。 ・ 書く活動に対して抵抗感の強い児童がいる。 ・ 相手を意識した話し方やねらいに沿って自分の考えを表現することを指導していく必要がある。 ・ 授業で新出漢字の指導や漢字クイズ、ペアでの練習時間を設けて意欲を高めている。繰り返し小テストを実施して定着させているが、個人差が大きい。今後も継続していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章中の表現により着目させ、叙述に沿って説明できるようにする。 ・ 授業の中でノートを書く目的を考えて指導する ・ 伝えたいことを書くときの型を提示したり授業の初めに振り返りとして数名の考えを紹介したりすることで、文章を書く力を向上させる。 ・ 漢字の定着を図るために、反復練習をさせた後に小テストを実施し、確実に身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝読書や図書の時間を確保し、読み聞かせ等、本に親しむ機会を十分にもつ。 ・ 板書をうつすためではなく、自分の考えをペアで表現するための手段や考えを再構築するため、振り返りのためと価値付けながら授業をおこなう ・ 朝のスピーチや話し合い活動の機会を多くもてるように、計画を立てる。聞き手を意識して話すように指導していく。 ・ 漢字の学習の仕方を指導し、家庭の自主学習で習熟を図る。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語文では、登場人物の気持ちの変化を豊かに読み取ることを指導してきたが、構成の工夫や主題に迫る授業の展開が必要である。 ・ 作文は、文章全体の構成を考えて書ける児童とそうでない児童（事実の羅列など）の差が大きい。 ・ 目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりしながら伝え合うことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動を明確にし、目的意識をもって読む活動が行えるように指導する。心に残ったところや出来事や中心人物の変化を中心に読めるように指導する。 ・ 書くときに見本文を提示したり、表現の効果について指導したりする。また、書いた文章を発表し合い、友達の文章の良い点に気付かせる。 ・ 話すこと・聞くことについては、分類したり関連付けたりする力を身に付けるために日常生活や他教科との関連を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書の幅を広げられるよう、図書館支援員と連携し、学習内容に沿った並行読書を行い、意欲喚起に役立てる。さらに、ジャンル毎、作者毎、などのテーマ性のある選書の仕方に触れる機会を設ける。 ・ 短文作りや日記など、日常の場面で書く活動を取り入れる。 ・ スピーチの時間を確保し、話したり聞いたりする力を学級全体で高めていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の読みの正答率が高いが、書く問題の正答率の個人差が大きい。 ・ 自分の考えを相手に分かるように伝えられる児童が少ない。 ・ 叙述をもとに登場人物の心情を考える力や文章の構成を考えて書き表す力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の学習の仕方や普段から漢字を活用して書くよう指導する。分からない言葉は辞典を引いて調べる習慣を身に付けさせる。 ・ 自分の考えを伝え合う場面を多く設定し、伝え方や受け止め方の指導を行う。 ・ 行動、会話、情景描写など心情の読み取りにつながる表現の例示、文章構成の例示などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を立てて計画的・自主的に行える学習課題を設定する。 ・ 定期的にスピーチの時間を作り、何を伝えたいのかを明確にした発表、何が話の中心なのかを意識した聞き取りができるような場面を設ける。 ・ 図書館支援員の方と連携を図り、様々なジャンルの本を子どもたちが手に取れるような環境をつくる。

≪本校の目指す授業≫ すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 社会

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る力を育てる必要がある。 校外学習で分かったことや、資料を調べて分かったことをもとに、学習課題について自分で考える力を育てる必要がある。 地域の特色を短い文章で表現する力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る観点を示し、丁寧に指導していく。 分かったことを交流する機会をもち、資料から読み取れる情報量を増やしていくとともに、新たな発見や疑問をもたせていく。 見学等から分かったことを比較したり、学習問題と関連付けたりして考えさせるよう、発問やワークシートを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料のどの部分をみるべきか、ICTを活用して資料提示や資料活用の方法を共有する。 授業のまとめを（部分的に）自分の言葉でまとめさせる。 白地図を整理・活用する際には常に方位や地図記号のきまりを確かめるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題について自分の課題としてとらえるために、より実感できる導入の工夫が必要である。 具体的な資料を通じて必要な情報を調べまとめる技能を培う機会を多く設ける必要がある。 学習した内容を適切に表現し、自分たちの生活に生かす機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を自分のこととして捉えられるように、身近な場所の写真やグラフなどの資料を提示する。 写真やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、ノートなどにまとめる活動を取り入れる。 学習の最後に新聞やタブレットを活用してまとめる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域および各関係機関と連携し、体験学習を取り入れる。 新聞やタブレットを活用した表現方法でまとめる際、発展的に調べ、学習内容を深める活動を行う。 社会科以外で社会科事象を話題にし、興味関心を高める。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 農業、産業に関わる資料をもとに思考する力や判断する力を育てる必要がある。 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置など、基本的な知識の定着には、個人差がある。 課題を解決するために調べたり、調べたこと 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決学習を取り入れ課題を解決するため、課題に適した中心となる資料を、複数の資料の中から選択させる。 新しい用語や地名などの習得のために知識に関わるゲームやクイズ等の活動を取り入れる。 課題解決の計画に小グループで互いの考えを交流し、発表する場を意図的につくる。 	<ul style="list-style-type: none"> お米の学校、社会科見学などの学習から自分の身近な生活と関連づけて考えられるようにする。 総合的な学習の時間など、他教科との関連付けながら調べ学習を行い、課題解決の学習のすすめ方を学んでいく。

	を表現したりする学習が必要である。	・ノートや新聞などにまとめる活動を定期的に積み重ねていく。	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の学習に興味はあるが、それぞれの人物や出来事についての理解と知識の定着をより確かなものにしていく必要がある。 ・社会的事象の意味について思考・判断し、自分の考えを適切に表現する力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理なく楽しみながら基本的な知識を獲得できるように、NHKの番組や映像資料を取り入れる。視聴覚教材を用いて人物についてのイメージを持たせる。 ・「もし自分だったらどうするか」と考えさせ、当時の出来事をできるだけ身近なこととして捉えさせるようにする。 ・時代背景や政治的文化的な背景を考慮して社会的現象の意味について考えられるように促し思考、判断、表現をさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学等の見学を通して、歴史や政治・経済、文化に対する関心・意欲を高める。 ・自ら興味をもった社会的な事象に対して積極的に調べる活動を促し、家庭学習等で取り組ませる。

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

≪本校の目指す授業≫ すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 算数

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<p>○数詞・数量は理解している児童が多い。</p> <p>○数の分解・合成が不十分な子がいる。問題場面を絵で見せて何を問われているか理解できるようにする。</p> <p>○場面の理解は「ちがい」を求めるのが理解不十分な子がいる。</p> <p>○計算は正確にできるが、時間がかかる子も2割ほどいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的な学校生活の場面の中で、繰り返し押さえていく。 ●半具体物をたくさん操作させながら、視覚的にも量感を育て、数の増減の理解を十分に行う。 ●授業時間内にカードや計算プリントを用いて、計算練習の習熟を図る。 	<p>△繰り返し反復練習させる。</p> <p>△支援が必要な子には、半具体物を用いて個別に対応する。</p> <p>△家庭との連携を密にとり、指導内容の定着を図る。</p> <p>△文章問題を読み、どんな場面か話す機会を設けたり、掲示物で場面をイメージさせたりして、思考力表現力を養う。</p>
2年	<p>○習熟度に差が見られる。</p> <p>○足し算・引き算の筆算では、繰り上がり、繰り下がり忘れてしまう子がいる。</p> <p>○水のかさでは、LからdLなどの単位変換の時時間がかかる子がいた。</p> <p>○まっすぐ線を作図することができない子がいる。</p> <p>○長さを正確に測れない子がいる。</p> <p>○時刻の習熟度にかなり差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●支援が必要な児童には、具体物や半具体物を用いて、個別に対応する。 ●位カードやブロックを用いることで繰り上がり、繰り下がりを押さえる。 ●繰り上げ・繰り下げた時の数字の書く位置をノート指導も兼ねて確認し、繰り返し押さえていく。 ●定規を使って直線を引く機会を日常的に増やしていく。 ●実物投影機を使って、考えやその根拠を発表する場を設ける。児童の考えを称賛し、価値づけていく。 	<p>△授業の中で机間指導をすることや練習問題を通して、児童のつまづきを把握し、こまめに個別指導をおこなう。</p> <p>△計算の定着を図るために、朝学習や宿題等で繰り返し、指導する。</p> <p>△家庭との連携を図りながら、学んだことを日常生活の場面に目を向けて指導内容の定着を図る。</p> <p>△ドリルパークを用いて繰り返し反復練習させる。</p>
3年	<p>○暗算や筆算の学習でつまづいている児童は、繰り下がりやかけ算九九の暗記・暗唱が不十分である。</p> <p>○「あまりはわる数より小さい」ことが、文章問題の中で活用できていないことがあった。学習の定着が不十分であった。</p> <p>○練習問題に取り組む際に、文章題の読み取りが正確にできないため、作図や立式に時間がかかることがあった。</p> <p>○自分の考えを述べるときに、用語や式に頼らない言葉での説明が中心となってしまっている。図や式を使った説明の経験が不十分である。</p> <p>○時刻と時間の指導が徹底できず、差異が曖昧な児童がいるため、「□時間■分(間)前の時刻」を考えることでつまづく児童があった。</p> <p>○円と球の性質を考える学習では、コンパスでの作図でつまづく児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●かけ算九九を覚えられるように、百マス計算等を取り入れ、かけ算九九の定着をはかる。 ●アレイ図やおはじき等を使い、商とあまりの関係を理解し、あまりをどう処理するか考えられるようにする。 ●文章問題を読むときに、わかっていることや聞かれていることに線を引くことを徹底して、正確に読み取ることができるようしていく。 ●ICT 機器を活用し、ノートをもとに考えを説明する学習や、図や式を関連付けながら説明する学習を多く取り入れる。 ●ノート指導に力を入れる。1ますに2桁の数まで書けることや、筆算と筆算の間をあけるように空白行を入れるなど、実物投影機を活用し、教師と一緒にノート作りを行うことを通して、計算間違いをしないノート作りを行う。 ●数直線や模型を使って、時刻と時間の違いを考えられるようにする。 ●ICT を活用して、コンパスの使い方、作図を丁寧に指導するとともに、模様作り等を通してコンパスを使って作図する機会を多くもつ。 	<p>△繰り返し反復練習させるために、授業時間内だけでなく、個別に補習プリントを課したり、隙間の時間に暗唱させたり、ミニテストを行ったりする。</p> <p>△自分の考えを説明する活動をできるだけ取り入れる。</p> <p>△教えるところと考えさせるところをうまく組み合わせ、繰り返し反復練習する機会をもつ。</p> <p>△ノートの書き方に注意を払い、常に分かりやすくまとめられるようにする。上手にまとめられているノートを紹介し、ノートのとり方の模範とさせる。</p> <p>△スモールステップを踏んで学習を進め、学習した内容を練習問題に適用する時間を確実に取る。</p> <p>△習熟度別授業を行い、さらに、支援が必要な子には個別に対応する。</p> <p>△東京ベーシックドリルだけでなく、教科書問題以外の発展的な問題も扱い、活用力を伸ばす。</p> <p>△日常生活の中の場面を意識させて、時刻と時間について考えさせるようにする。</p> <p>△2クラス3展開の授業を行い、個に応じた指導を充実させる。</p>

4年	<p>○暗算や筆算の学習で躓いている児童は、かけ算九九の暗記・暗唱が不十分である子もいる。</p> <p>○かけ算の筆算では計算の手順は捉えているが、位や筆算の仕組みの理解が不十分でなかなか答えを導くことが出来ない児童がいた。</p> <p>○家庭学習では、計算の仕方や練習問題の進め方に個人差があるので授業の中で答えの求め方を確認し、共有する必要がある。</p> <p>○角の大きさなど、分度器や三角定規などの道具の扱い方は定着されている。角度の大きさの感覚をもつ力が十分に身に付いていないため、正確に測定することが難しい。</p> <p>○既習事項を想起し、それを基に自分の考えを作ろうとするが、他者に分かるように説明する力が不十分である。</p> <p>○文章問題では単位忘れが多くみられており、文章題の読み取りの指導が必要である。</p>	<p>●ICTを活用して、教師と一緒にコンパスや分度器の使い方を確認したり、定規や三角定規を使った作図を丁寧に指導したりする。</p> <p>●ノート指導に力を入れる。筆算と筆算の間をあけるように空白行を入れるなど、実物投影機を活用し、教師と一緒にノート作りを行うことを通して、細かい点に注意させ、計算間違いをしないノート作りを行う。</p> <p>●ICTを活用したり、話型を提示したりすることで、多くの児童が自分の考えを表現できるようにする。友達の考えを大切にし、多様な考えがあることに気付かせていく。</p> <p>●作図や測定の際には、その図形の特徴を確かめ、どれくらいの大きさか見通しをもってから取り組ませる。</p> <p>●文章問題を読むとき、わかっていることや、聞かれているに線を引きさせることを徹底して、正確に読み取ることができるようにしていく。</p>	<p>△繰り返し反復練習させるために、授業時間内だけでなく、習熟度に応じたプリントを課したり、小テストを行ったりする。</p> <p>△教えるところと考えさせるところをうまく組み合わせ、繰り返し反復練習する機会をもつ。</p> <p>△スモールステップを踏んで学習を進め、学習した内容を練習問題に適用する時間を確実に取る。</p> <p>△東京ベーシックドリルだけでなく、教科書問題以外の発展的な問題も扱い、活用力を伸ばす。</p> <p>△ノートの書き方に注意を払い、常に分かりやすくまとめられるようにする。上手にまとめられているノートをいくつか紹介し、ノートのとり方のお手本とさせる。</p> <p>△習熟度別授業を行い、さらに、支援が必要な子には個別に対応する。</p> <p>△自分の考えを説明する活動をできるだけ取り入れる。</p>
5年	<p>○十進位取記数法としての整数と小数の関係はよく理解している反面、円周率の計算などの小数の複雑な計算になると、小数点の位置を間違えう姿がある。</p> <p>○小数の割り算の筆算が苦手な児童が多い。</p> <p>○分数に整数をかけたたり、分数を整数で割ったりする計算は、よくできている。</p> <p>○倍数と公倍数、約数と公約数の見つけ方に課題をもつ子が多い。</p> <p>○三角形の面積の求積問題など、計算領域の学習は得意だが、合同な三角形の作図など、図形を描く問題を苦手としている子が多く見られる。</p> <p>○既習事項を想起し、それを基に自分の考えを作ろうとするが、他者に分かるように説明するのは苦手である。</p> <p>○課題を図に表すことに時間がかかっている児童が多い。</p>	<p>●ノート指導に力を入れる。1マスに2桁の数まで書けることや、筆算と筆算の間をあけるように空白行を入れるなど、実物投影機を活用し、教師と一緒にノート作りを行うことを通して、細かい点に注意させ、計算間違いをしないノート作りを行う。</p> <p>●計算は、かけ算九九を応用させる計算ですべて解いていきたいという、小数の掛け算と割り算の筆算の意味や筆算の仕方を理解し、繰り返し練習で習熟を図る。</p> <p>●作図の方法を確認する中で、道具の使い方を振り返るようにしていく。</p> <p>●作図の際には、図形の性質や特徴を確かめ、どの道具を使って描くのか照らし合わせる。</p> <p>●問題解決型学習を通して、数学的思考力を養う。</p> <p>●友達の考え方を大切にし、多様な考え方があることに気づかせていく。</p>	<p>△習熟度別のグループを作り対応し、学力向上支援講師との連携を図り、必要に応じて個に応じた対応を行う。</p> <p>△ノートの書き方に注意を払い、常に分かりやすくまとめられるようにする。上手にまとめられているノートをいくつか紹介し、ノートのとり方のお手本とさせる。</p> <p>△公倍数・公約数の問題では、連除法を活用して、因数分解しながら解決していくようにさせる。</p> <p>△一授業時間の中で、習熟の時間を計画的につくる。</p> <p>△問題解決型学習を通して、数学的な考え方を養う。</p> <p>△既習事項を想起し、それを基に自分の考えを作らせる。</p> <p>△他者への説明を行う場を意図的に設け、言語活動の充実による理解の深化を促す。</p>
6年	<p>○分数や小数の四則計算において、基準量×倍＝比較量の式に正しく当てはめて考えられない様子がある。</p> <p>○角柱の体積の求め方では、どの面を底面と捉えるかつかみ切れていない様子がある。縦×横×高さから脱却できない様子がある。</p> <p>○対称な図形では、特に点対称な図形において、対応する辺・点・角を正しく読み取ったり、正しく作図したりすることが難しい様子がある。</p> <p>○既習事項を活用し、見通しをもって取り組むことは理解しているものの、論理的に説明する力については、十分身に付いていない。</p>	<p>●立式においては、数直線を使ったり、言葉の式で確認したり、多様な方法で立式ができるようにしていく。</p> <p>●具体物を使って、どの面を底面として捉えるか確認するようにしていく。</p> <p>●作図の際には、その図形の性質や特徴を確かめ、完成した図形の形を予めイメージさせてから取り組ませる。また、どの道具を使って描くのか照らし合わせる。</p> <p>●お互いに交流することができないので、論理的にノートをまとめている児童の考えを取り上げながら、具体的な説明の仕方を全体で共有していく。</p>	<p>△習熟度別のグループを作り、学力向上支援講師との連携を図り、必要に応じて個に応じた対応を行う。</p> <p>△上手にまとめられているノートをいくつか紹介し、分かりやすくまとめられるようにする。</p> <p>△1単位時間の中で、習熟の時間を計画的につくる。</p> <p>△問題解決型学習を通して、数学的な考え方を養う。</p> <p>△既習事項を想起し、それを基に自分の考えを作らせる。</p> <p>△発展問題として、問題集などの演習問題にも取り組ませるようにする。</p>

	○比を利用した学習において、それまでに学習した比の値や等しい比のつくり方などと結び付けられない様子がある。	●線分図を活用しながら問題場面を把握していく。	△日頃から問題場面の把握をする際に、線分図や数直線、図、表などを用いて考える力を育てる。
--	---	-------------------------	--

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

〈本校の目指す授業〉 すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 理科

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 植物や昆虫を進んで観察することができ、ホウセンカやヒマワリの記録は継続的に取れたが、花が咲く時期に観察ができなかった。 前に観察して分かったことと比較して観察することが難しい。 身の回りの事象と結びつけて、実験の結果予想をたてることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察時にデジタルカメラやタブレットでの記録を行い、 프로젝タを用いて提示し、振り返って学習する機会を設定する。 課題解決型の学習に慣れ、科学的思考力を育てていくようにする。 昆虫を教室で飼うなど、生き物に触れる機会を設けているが、それらを継続的にやりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習と関連させ、興味をもった生き物について調べ学習を行うことにより、興味・関心を高める。 単元の終わりにおもちゃ作りなどを設定し、理科への興味・関心を高めるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 植物の観察について学習時間以外でも興味を継続させ、意欲的に気づきをもたせることができなかった。 根拠をもった予想が考えられるように指導を続けてきたが、生活経験が少ないため自然事象の導入を丁寧に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の世話や観察日記など学習外でも植物を観る習慣をつける。 問題解決学習として、問題→予想→実験方法→実験・観察→結果→考察→結論のサイクルを確立させ、このサイクルで授業が進むよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察に進んで取り組むことから、結果から考えられることを科学的に分析し、表現できるように指導する。 自らが根拠をもって考えた実験計画を行えるよう指導計画を工夫する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 「天気の変化」「台風と防災」では、天気の観察だけでなく、新聞、テレビ、インターネットなどから気象情報を集める必要がある。情報収集や情報の整理が不十分な児童がみられる。 「植物の実や種子のでき方」ではアサガオを使って、受粉させた花と受粉させなかった花を調べたが、児童にとってはかなり難しい実験だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報の収集の仕方と気象衛星の雲画像やアメダスの雨量情報等の読み方を一斉指導する。一斉指導だけでは理解できない場合は、個別指導を行い、理解を深めさせる。 児童が実験する場合、扱う植物は安全で扱いやすいものがよい。アサガオは受粉の時刻等からして扱いにくい植物である。ここでは、おしべとめしべが別々の花になっているツルレイシを使うと実験がやりやすい。事前に予備実験を行って素材を選ぶことが重要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 天気や気象への興味関心を高めるために、①過去の大きな台風の規模、被害などを調べる。②大雨や台風などによる災害を防ぐために、どんな対策が講じられているかなどを調べる。 植物の花粉や受粉への興味関心を高めるために、植物のさまざまな受粉のしかたや花粉の大きさ、形などを図鑑やインターネットで調べる活動を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 「月と太陽」「土地のつくりと変化」では屋外の観察や現地調査が難しい。 問題解決力が不十分な児童がみられる。 観察や実験器具を安全かつ適切に使うことが不十分な児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「月の形の変化」では、教室に実験装置を準備し装置の周りを児童が移動することで理解を深めることができた。「地層のでき方」では実際に砂を流す堆積実験を行うことで理解を深めることができた。 問題解決力は、自然の事象・現象を多面的にとらえることが大切である。そのためには、調べた結果からわかることを整理して予想と結果に適した考えを見いだすことが大事であるので、問題解決の過程をおさえて丁寧に授業を行う。 実器具の安全な使い方を指導するために、電子黒板を活用した一斉指導を行う。実験中は安全面の視点で机間指導を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の他に、ビデオ教材やインターネットの映像を活用してさらに理解を深めることができた。 問題解決の過程が表すカードを作成し、活用する。授業では、友達の発表を聞いて自分の考えを深められるように、助言する。 実験の後は、安全に注意して実験ができたか、必ず実験の振り返りを行う。

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

≪本校の目指す授業≫ すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 生活

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1 年	1 ① 対象に直接働きかける具体的活動や体験が不十分で、気付きや願いが少ない子がいる。	□楽しさを味わえる体験活動を増やし（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ等）、感じたことを教師や友達、家族に伝える活動を重視し、繰り返し指導する。	□他教科の学習活動などに関連させる。
	② 観察や見学の視点が曖昧で、カード記入の際に気付きや興味が表れにくい。	□実物投影機やプロジェクター、タブレット等を利用して、観点を具体的に提示する。	
	2 ① 発表する機会や互いの表現を見合った後、気付きの質を高めるための時間が不十分である。	□表現方法を自ら選べるように、複数の選択肢を示すことができるようにする。	□様々な表現方法を体験できるように、意図的に活動を設定する。表現方法を知った上で、願いや思いに基づいた活動を行う。
	② 多様な表現方法を体験することが不十分である。	□気付き同士の関係や関連が確認されたときに意味づけ、価値づけを行う。	□観察した事例同士、他の事例の資料を用いるなどして比較を行い、共通点や相違点に気付かせる。
	3 ① 安定的に意欲や自信をもって活動できない子がいる。	□繰り返しての活動を計画的に行う。	
	② 自分自身の成長や満足感を感じる手応えを味わえるように自分の願いや思いを明確にもつ必要	□自分から挑戦してみたい、働きかけたい、という気持ちを取り上げ、次への活動に生かす。	

	がある。		
2 年	1 ① 児童の思いをもとにした活動計画を立てる。 ② 活動の見通しをもたせる必要がある。 ③ 体験したことを基に考えられるようにする。	<input type="checkbox"/> 単元のめあてや単元計画の中での位置づけを明確にして、指導を行う。 <input type="checkbox"/> 楽しさを味わえる体験活動を増やし（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ等）、感じたことを教師や友達、家族に伝える活動を重視し、繰り返し指導する。	<input type="checkbox"/> 様々な表現方法を体験できるよう、意図的に活動を設定する。表現方法を知った上で、願いや思いに基づいた活動を行う。 <input type="checkbox"/> 他教科の学習活動などに関連させる。
	2 ① 自分の考えを積極的に発表できるように工夫する。	<input type="checkbox"/> ワークシートや観察カードなどで気づきを日常的に表現させ、交流を促す。 <input type="checkbox"/> 実物投影機やプロジェクター等を活用して観点を具体的に提示する。	<input type="checkbox"/> 自分の考えを表現するのが不得手な児童には、発表カード等を用いて表現しやすくする。
	3 ① 活動を発表する機会を設け、自分の思いを聞いてもらう喜びや自分と異なる取り組みを知ること で意欲を高める。	<input type="checkbox"/> 育てたり、作ったり、調べたりする活動から、多様な気づきを発表できるようにする。 <input type="checkbox"/> 発表でグループの規模を段階的に大きくして友達に伝えやすくする。 <input type="checkbox"/> 実物投影機やタブレットを活用し、考えの根拠になった実物を提示したり、思いを言葉で伝えたりする。	<input type="checkbox"/> 活動時の様子を写真なども交えて良い評価と共に 掲示し、価値づける。

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

教科 音楽 **《本校の目指す授業》** すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 感性を働かせ主体的に学習に向かうようにする。 一単位の授業の組立を児童の思考に寄り添えるよう工夫する。指導のねらい児童のゴールイメージを明確にして授業を構想する 鍵盤ハーモニカは、技能面の指導を3密に配慮しながら系統的に行う。(運指、息づかい、タンギング) 	<ul style="list-style-type: none"> 体の動きを取り入れ、ねらいに沿って楽しく表現できるようにする。 毎時間の導入で本時のねらいに迫るために、リズム遊び、歌音楽クイズなど適宜取り入れ、学習への課題意識、意欲喚起をする。振り返りでは、できるようになったこと、わかったことを発表させる。 歌唱との関連を図り、曲想にあった演奏方法に気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の学びと家庭との学びを結び付け、主体的に学べるように、演奏支援動画配信などを行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 関わり合い学び高め合う態度を育成する指導。 曲想と音楽の構造のかかわり合いに気付き、思いをもって表現したり味わって鑑賞する力を育成する。 鍵盤、木琴等の楽器の基本奏法と、アンサンブル力、読譜力を高める系統的指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持ち表現し、友達の表現を大切に受けとめる集団づくり。 聴き取ったことと感じ取ったこととの結び付けながら気付きを深め、ワクワクドキドキポイントを見つけ、課題を設定していく。 知識を明確に設定し、楽しく学び合い自分達の思いにあった演奏を目指す中で、楽しく奏法を見に付ける。段階的なリズムのフラッシュカードにより読譜力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の学びと家庭との学びを結び付け、主体的に学べるように、演奏支援動画配信などを行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 様々な感じ方を許容し協力し活動する態度の育成。 3密に配慮しながら初めて扱うリコーダーの系統的指導。音高に重点をおいた読譜力の系統的指導。 思いにあった表現を工夫する中で、主体的に学び自ら必要感もち技能を習得していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを絞った共有・共感の場を設定する。 I C T機器を使用し奏法や読譜を分かりやすく提示し、読譜を押さえながら、友達同士協力して思いにあった奏法の定着を目指す学習展開にする。 鑑賞で学んだことを表現に生かせる指導計画を立て、分野の関連を図り、学習内容の理解が深まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の学びと家庭との学びを結び付け、主体的に学べるように、演奏支援動画配信などを行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 考えを伝え合いよりよい表現を目指す態度の育成。 様々な楽器に親しみ、聴き合いながら合わせて演奏するアンサンブル力を高める指導法の工夫。 曲想や音楽を特徴付けている要素のかかわり合いに気付いて聴き、表現に生かしていく系統的指導。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習を取り入れ、伝え合い学び合える集団育成に努める。 聴き合い演奏するために具体的なポイントを提示し、話し合いを生かしてアンサンブル力を高める。 鑑賞活動で板書で知覚・感受の関わりを整理し理解を助けたり、題材の学びを次の学びにつなげたりと考えて年間計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の学びと家庭との学びを結び付け、主体的に学べるように、演奏支援動画配信などを行う。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、自分なりによさや面白さを見出し味わって聴けるようにする。 ・知識をふまえて、曲想や思いにあった表現ができる技能習得の系統的な指導と評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の姿をイメージしながら、思考に寄り添う学習過程を考えていく。特に、曲全体を味わって聴けるように、児童の気付き感受から学習課題を設定できるようにする。 ・児童が明確な考えや願い、意図をもつようにし音楽の要素を操作し表現方法を工夫し理解を深め技能を高めることができる活動を組み立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の学びと家庭との学びを結び付け、主体的に学べるように、演奏支援動画配信などを行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の目指す音楽を協働してつくりあげる素晴らしさを実感し、主体的な学習態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画を提示し見通しをもてるようにする。また振り返りから、児童が自ら学習課題を見いだせるよう導く。そして、解決方法を自ら試行錯誤しながら学び方学んでいけるようにする。 ・録音、自動伴奏機能・タブレットのアプリ、支援動画配信などの効果的な活用方法を研究し児童の（個別の）学びを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の学びと家庭との学びを結び付け、主体的に学べるように、演奏支援動画配信などを行う。

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

《本校の目指す授業》 すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 図画工作

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	クレヨンなどを用いて、絵を意欲的に描くことができる。ハサミを用いた立体も意欲的に学習して使い方を学んでいる。クラスの友達の作品を見合う時間をとり、多様さやおもしろさに気づいている。技能面で個人差があり、支援を必要とする。	題材の提示を工夫して興味、意欲をもたせる。わかりやすい簡単な板書や、個々に応じた支援をする。のりやはさみなどの扱いにおいて、基礎的な作業を繰り返し行うことで身につけさせる。いろいろな表現の仕方を師範して発想の手立てとする。	師範の仕方をわかりやすくするために、子供と同じ材料用具を使うようにし、板書や ICT など具体的に示す。互いに楽しく見合える授業の雰囲気をつくる。
2年	意欲的に絵や立体に表すことや活動ができる。楽しんで自分なりに作品をつくらうとしている。既習した用具を正しく使うことができる。材料の使い方の工夫などに個人的な差がみられる。	児童の作品の良いところに注目し、皆の前で紹介することで、表現意欲を高める。用具などの使用方法の間違いを見つけた場合は、すぐその場で注意をして正させる。失敗した場合の直し方を具体的に示し、のびのび進められるようにする。	初めに基本となる技法をわかりやすく説明し、その先は個々の発想や工夫を促すようにする。同じ作業を繰り返す中で、新しい工夫を自ら見つけられるようにする。
3年	意欲的に絵や立体に表すことや活動ができ、楽しんで自分なりに作品をつくらうとしている。用具の正しい使い方や、描画材の使い方の工夫などに個人的な差がみられる。	題材を適切に選び、児童の興味関心に合った材料や用具を用意して、楽しみながら発想や技能が深まる指導をしていく。簡単な道具の扱いに慣れ習得するよう、3密に配慮しながら手を動かす活動を多く取り入れる。	学習中の児童の様子や、発言及び作品から児童の状況を把握する。鑑賞の中から自分の作品のよさや友達の作品のよさに気付く機会を多くもたせるようにする。
4年	新規の題材に対して積極的、継続的に取り組み、いろいろな材料を使った平面・立体作品を、楽しんで意欲的につくることができる。用具の使い方や描画材の使い方の工夫に個人差が大きい。	材料や技法の特性を感じとって、造形活動に生かし、3密に配慮しながら友だちの活動からよさを見取って活動のヒントにする活動を積み重ねていくことで、基礎的な技能を高めていく。	学習中の児童の様子や、発言および作品から児童の状況を把握する。作品の完成時には発表会を行い、自分の作品のよさや友達の作品のよさに気付く機会を多く持たせるようにする。
5年	絵の具を使った絵やいろいろな材料を使った立体作品を楽しんで意欲的につくることができる。用具の使い方や描画材の使い方の工夫、客観的な作品の鑑賞などに個人差が大きい。	これまでの造形体験の蓄積を活かし、さらにねらいに合わせた材料選択ができるように意識させていく。苦手意識の強い児童に対しては、個々の児童に合った支援を行い、つくる楽しさを味わえるようにする。	ICT や参考作例を使用し、わかりやすく画材や用具を説明し、技能の定着をはかる。児童の資質や能力に応じて作品の完成度を高めるための工夫をする。
6年	自分の思った事を意欲的に、絵の具で描いたり紙などで工作したりして楽しんでいる。自らの作品や、友達の作品を客観的に鑑賞することができるようになってきた。仕上がりが大雑把になってしまう児童もいる。	よいところを褒め、3密に配慮しながら児童とのコミュニケーションを図る。既習事項を確認し、題材との新鮮な出会いから興味意欲をもたせるようにする。主体的に自分で考え活動するように意思付けしていく。	個々の児童の資質や能力に応じて作品の完成度を高めるための工夫をする。3密に配慮しながらワークシートや班での話し合い・鑑賞活動を通し、自分や友達のよさに気付く機会を多くもたせるようにする。

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

《本校の目指す授業》 すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 家庭

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
5年	<p>○感染拡大防止により、食事の大切さを理解させるための実践的・体験的な活動を行うことができなかった。</p> <p>○手縫いやミシン縫いの実践的・体験的な活動家経験が少ない。</p>	<p>□実践的・体験的な活動については、家庭での学習課題として設定し、家庭の協力を得る。</p> <p>□目的に応じて手縫いやミシン縫いの技能の定着を図るため、補強体制や保護者の手伝いなど得るなどして、児童への指導の充実を図る。</p>	<p>□授業内で身に付けたことや計画したことを実践し、家庭生活に取り入れ、家族のため、または家族と一緒に活動できるよう促し、取り組ませる。</p> <p>□個別指導を行い、手縫いやミシン縫いの技能定着及び、向上を目指す。</p>
6年	<p>○感染防止対策により、食事の大切さへの理解を深めるために、実習を伴う実践的・体験的な活動を行うことができなかった。</p> <p>○手縫いの学習の経験が浅い。</p>	<p>□実践的・体験的な活動については、知識的なことを学習し調理計画を立ててから、家庭での学習課題として設定する。その後、家庭での協力を得て実践する。</p> <p>□継続的な並縫い、手縫いの経験を重ねる。</p>	<p>□これまでの学習で身に付けたことを家庭生活に取り入れ、家族のため、または家族と一緒に活動できるよう促し、取り組ませる。</p> <p>□家庭実践をふり返ったり、良かった点や課題を話し合ったりして、更に実践を深めていく。</p>

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

《本校の目指す授業》 すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 家庭

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
5年	<p>○感染拡大防止により、食事の大切さを理解させるための実践的・体験的な活動を行うことができなかった。</p> <p>○手縫いやミシン縫いの実践的・体験的な活動や経験が少ない。</p>	<p>□実践的・体験的な活動については、家庭での学習課題として設定し、家庭の協力を得る。</p> <p>□目的に応じて手縫いやミシン縫いの技能の定着を図るため、補強体制や保護者の手伝いなど得るなどして、児童への指導の充実を図る。</p>	<p>□授業内で身に付けたことや計画したことを実践し、家庭生活に取り入れ、家族のため、または家族と一緒に活動できるよう促し、取り組ませる。</p> <p>□個別指導を行い、手縫いやミシン縫いの技能定着及び、向上を目指す。</p>
6年	<p>○感染防止対策により、食事の大切さへの理解を深めるために、実習を伴う実践的・体験的な活動を行うことができなかった。</p> <p>○手縫いの学習の経験が浅い。</p>	<p>□実践的・体験的な活動については、知識的なことを学習し調理計画を立ててから、家庭での学習課題として設定する。その後、家庭での協力を得て実践する。</p> <p>□継続的な並縫い、手縫いの経験を重ねる。</p>	<p>□これまでの学習で身に付けたことを家庭生活に取り入れ、家族のため、または家族と一緒に活動できるよう促し、取り組ませる。</p> <p>□家庭実践をふり返ったり、良かった点や課題を話し合ったりして、更に実践を深めていく。</p>

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

≪本校の目指す授業≫ すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する
教科 体育

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 固定施設を使った運動遊びの指導が、まだ不十分である。どの子にも体を動かす楽しさを味わわせる必要がある。 みんなと協力することはできるが、勝敗を受け入れるなど望ましい態度がまだ身に付いていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 器械・器具に触れる機会を多くもち、多様な運動感覚を身に付けさせる。 跳・走等の動きに短時間でも継続的に取り組ませて、基本的な体力の促進を図る。 遊びの中でルールをきちんと守ったり、ルールを工夫したりする場を作り楽しく活動できるようにする。 集団の中で楽しく運動するには、望ましい態度が必要であることに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、休み時間にも固定遊具や施設を利用した遊びに取り組むよう意欲喚起を図る。 休み時間に子供が自ら取り組むことができる遊びを紹介し、遊びを通して体力を高められるようにする。 全校で取り組む短縄や持久走を利用し、体力づくりをする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> きまりを守って運動することはできるようになったが、誰とでも仲良くすることや勝敗を受け入れるなど望ましい態度がまだ身に付いていない児童がいる。 多様な運動感覚を得ていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本の運動やゲームの中でルールを守り、ルールを工夫する場を作り、楽しく活動できるようにする。 集団の中で楽しく運動するために、体まぐし運動時など人数に条件をつけ、色々な友達と関わりながら活動ができるようにする。 跳・走等の動きに短時間でも継続的に取り組ませて、基本的な体力の促進を図る。 どの子も運動する楽しさを味わえるような場の設定の工夫、意図的な声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス遊びを取り入れることで、誰とでも仲良く体を動かす楽しさを味わわせていく。 全校で取り組む短縄や持久走を利用し、体力づくりをする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 運動経験が少ない児童への指導方法を工夫していく必要がある。 滑らかな動きや調整しながら体を動かすことに慣れていない児童が多い。 めあてをもつ力、規則を工夫する力を身に付けさせたい。 保健の健康な生活の学習では、新型コロナウイルス感染防止の観点からも、予防方法についての理解を深め、実践力を高める必 	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動で見られる、経験の少なさによる回転系や支持系の基本的な技への怖さを、楽しさに変えていくような場の設定や補助運動を工夫する。 学習資料やタブレット等を活用し、互いのよい動きを認めたりアドバイスができたりするようにする。 学習カードや学習資料等を活用し、めあてや簡単な作戦を立てたり規則の工夫をしたり 	<ul style="list-style-type: none"> クラス遊びを定期的に行い、みんなで楽しく運動する時間を作る。 マラソン旬間やなわとび旬間の取組を活用して、運動する機会を日常化する。 保健の学習と関連させて、三密を避ける、マスクをする、手洗いうがいを励行する等、日常生活での新型コロナウイルス感染防止への取組を通して理解を深め、実践力を高める。

	<p>要がある。</p>	<p>する時間を設ける。</p>	
4年	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間内に振り返りの時間を設けることができないことがあった。 技能の差を埋める学び合いや手立ての工夫が足りなかった。 保健の体の成長の学習では、成長には個人差があり、人と比べるのではなく自分自身について考え、体の変化について理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の指導計画を見直し、活動時間を減らさず振り返り時間を設けられるようにタイムスケジュールを行う。 チーム編成を意図的に行い、個に応じた課題を解決できるように場の工夫を行う。 保健学習では、誰もがいつかは起こる体の変化について学習内容を理解できるよう、養護教諭や地域人材を活用した学習を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能的なポイントを教師が明確にし、運動が得意な児童を中心に教え合えるようにする。 体育で行った運動を休み時間やクラス遊びにも取り組めるような環境を作る。 成長における個人差を理解しながら、人権への配慮等にも目を向けられるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 力強く走ったり、跳んだり、投げたりすることがスムーズにできない児童への指導が不十分である。 保健の怪我防止の学習では、発生原因や防止の方法について理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢などのポイントを示す。短い助走やインターバルを設定し、段階を踏んだ学習内容の経験から、よい動きが身に付くようにする。 器具、用具や行い方を変えながら繰り返し行い、易しい運動から徐々に動きが高まるようにする。 保健学習では、児童が学習内容を理解できるようにするために、調べ学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上のため、学習カードやなわとびカード等を活用して、休み時間など運動機会の日常化を図る。 児童が資料を使いながら、自分の言葉で友達にアドバイスをを行い、課題解決を図る活動を意図的に取り入れる。 通学路の改善例などから、様々な安全施設の整備や適切な規制が行われていることにも触れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> タブレットなどのICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、自己や仲間の課題を見付け、課題解決のために考えたことを伝え合う必要がある。 保健の病気の予防の学習では、新型コロナウイルス感染防止の観点からも、予防方法について自ら調べ、解決を図ることで理解を深め、実践力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたりしたことを伝えられるよう動きのポイントを明確にした資料や課題解決のための場を用意する。 学習過程を提示し、児童が学習を終えた姿を共有できるようにする。 学習カードを活用して実態を把握し、次時の自己やチームの課題解決への支援につなげる。 病気の予防に関わる事象から課題を見付け、解決の視点から調べ、理由を挙げて友達に説明する活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料を積極的に活用する。 体力向上のため、体育的活動や休み時間等を活用して長縄や短縄、持久走に取り組む。 固定器具などに取り組むよさを授業の中で伝え、休み時間などに日常的に筋力を鍛えることができるようにする。 三密を避ける、マスクをする、手洗い・うがいの励行等、日常生活での新型コロナウイルス感染防止への取組を通して理解を深め、実践力を高める。 中学校への接続を意識して取り組む。

指導方法の課題分析と授業改善策〈様式3〉 中村西小学校の授業改善・重点内容

≪本校の目指す授業≫ すすんで学ぼう・自分の考えをもつ・考えを交流し合う・学んだことを表現する

教科 外国語

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
5年	○感染防止対策のため、外国語の学習で大切な児童同士のコミュニケーション活動が十分に行えなかった。	□音声教材、映像教材を活用した聞く活動、ソーシャルディスタンスを保った短いやりとりや発表等の話す活動、ワークシート等を使っ書く活動を中心に学習を進める。	□タブレット PC を活用し、自分の伝えたいことを補助する写真やスライドを使った発表活動を設定する。
6年	○感染防止対策のため、外国語の学習で大切な児童同士のコミュニケーション活動が十分に行えなかった。	□音声教材、映像教材を活用した聞く活動、ソーシャルディスタンスを保った短いやりとりや発表等の話す活動、ワークシート等を使った書く活動を中心に学習を進める。	□タブレット PC を活用し、自分の伝えたいことを補助する写真やスライドを使った発表活動を設定する。